

浜嶋です。

## 母親世代タスクチーム概要報告（4／4）

今回は最後です。

いろいろな意見があります。網羅できですね。それぞれ参考になりました。

いいところを取り入れて、効果を高めるように2回のやり方を変えてみたいと思います。

皆さんのご要望があれば、取り入れていきたいと思います。

### トークセッションのまとめ

#### 1 2. 団（隊）は、どのように募集活動をしていますか

- ・ 口コミのみで募集
- ・ 小学校にチラシを置いてもらえない。小学校から断られてしまうので口コミで募集
- ・ 公園でイベントのチラシをもらった
- ・ 大きなイベントの際には、スーパーマーケットにチラシを貼ってもらっている
- ・ 団のホームページで逐次入団受付中
- ・ ボーイスカウトに入って明らかに変化があった子がいた。その子を知っている保護者には影響があった
- ・ 我が子がボーイスカウトに入っているのを知った子どもたちが体験に来た。大きなイベントでお土産付き、楽しそうにしていたのに、誰も入らなかった。その時は聞けなかったが、後で理由を聞いたら、保護者のお手伝いが嫌、子どもが嫌と言った、とのことだった

#### 1 3. あなたは、口コミってできますか

- ・ 仲が良いほど、相手の生活スタイルを知っているのので、誘うのが難しいこともある。（共稼ぎ＝週末は休みたいよね、早起きしたくないよね・・・など）
- ・ 相手を見極めて誘っている。仲が良くても価値観が異なる保護者は誘わない
- ・ お金を払うと子どもが行って何かしてくる、と思っている保護者が多い。ボーイスカウトは他の習い事と違うので、保護者がボーイスカウトを習い事と同じだと思っている保護者は難しい。習い事では得られないもの（協調性など）を求めている保護者は誘える
- ・ お受験をさせようと、お稽古的に”スキルの一つ”としてとらえている保護者には難しい
- ・ 相手を見て誘う。点数制で考えている保護者には響かない。人間性、社会性に興味のある保護者には響く。「それらを育むのに、外遊びは良いんだよ」
- ・ ネット情報だけを見ている保護者には繋がらなく、イベントに参加して話しかけてくれ

る保護者には繋がる

- ・「話が違う」などトラブルになるかもしれないので、ロコミはできない
- ・誘わないが、聞かれたら情報を出している。体験できることを伝える
- ・工作やキャンプだけじゃね・・・と思っている保護者には、この先この子がどうなるのか、先が見えていれば入りやすいし勧めやすい。そこをアピールできていればもっと良いのと思う
- ・学校の友達を誘いたくない。知らない者同士、学校とは違う環境での体験がさせたい。学校の友だちと一緒にいたら、学校と同じになってしまうので、あえて誘わない
- ・ボーイスカウトの受け入れ時期がもったいない。すでに習い事をしている状態で見学に来ても”もう一つの習い事”としての検討になるため、なかなか入団しようとはならない。習い事の発表会などが週末のことが多く活動と重なってしまうので、”もう一つの習い事”としての候補から落ちてしまう
- ・団によって、規模も雰囲気やスタンスも全然違う。指導者はスカウトからのたたき上げかと思っていたら、保護者だった。ボーイスカウト魂は落ちていないかという心配もしてしまう。すべての団・指導者が同じレベルの資質を保てるよう、そこを統一してもらえれば、ロコミしやすくなると思う

#### 14. テーマに関連して出された、その他いろいろ

- ・先輩スカウトが「活動に来いよ」と声をかけてくれる。私立に通うその子は「地域での活動が大事」だと子どもたちに話してくれる
- ・他団と交流がなく、活動に広がりを感じない
- ・上進に向け、「親に頼るな、隊長に聞け」と言われた（親の関与を減らしていることがわかった）
- ・女の子の上進は、友だちの状況に大きく左右される
- ・団行事で上の部門のスカウトが入ってくると、憧れの存在でみられている
- ・8割がお受験という小学校がある。週末はテストで休むので、入団してもやめてしまう

以上

お疲れさまでした。